



教会教育室だより

宣教部 教会教育室 2022.10.18 発行



日本バプテスト連盟のホームページをご覧ください

「教会学校の意義と働き」を確かめよう

塩山宗満(茂原教会)

私たちの教会は20年ほど前に生まれたときから「教会学校は伝道の第一線」と宣言して、全年齢層の教会学校を持ってきました。初期の頃はクリスチャンファミリーの子どもたちも多く、その子どもたちが教会学校で信仰を育み、バプテスマを受けていきました。彼らが成長しこの地を離れていった近年になって、外国籍の人やその子どもたちも参加するようになり、もう一度教会学校の働きを確かめたい、と言う声が上がってきました。

今年度になり『教会学校ハンドブック』を手に、みんなで「教会学校の意義と働き」の学びを始めました。3回の研修会には毎回13-4名の出席があり、その中で考えたことは次のようなことでした。

- *クラス編成：参加者に対応したクラスが必要、時には一対一も。
- *高齢者、弱年層、子どもたち、外国籍の人たち、といった多様な人たちに対応する力を持ちたい
- *出席の記録が必要
- *『聖書教育』誌の使い方に工夫がいる

9月4日に連盟教会教育室の富田直美室長を招き、研修の仕上げをしました。「知る力、見抜く力」と題した礼拝メッセージの後、わたしたちが疑問に思ったこと、課題としてとらえたことへのアドバイスを戴きました。10人いれば10通り、そのままでは使えない『聖書教育』、時間を共有していく中で感じ取っていく、目先のことでなく、長期的に教会全体の取り組みにしていく、などを語ってくださり、一同これからの教会学校のあゆみに示唆を戴きました。

現在は、幼少科、中高青年科、成人科、英語科で、『聖書教育』誌をテキストに教会学校を持っています。『聖書教育』誌が月刊になるというので、楽しみにしている反面、点字版、英語版は無くなるし、手話のページもなくなるなど、少数者に対する配慮が消えていくのは残念です。私たちの教会では英語クラスがZoomでの参加者も含めいつも8-10人ほどいるので、テキストの英語版を全国レベルで協力して作っていただけないかと期待しています。



東北地方連合の「教会教育研修会」

小川紋子(盛岡バプテスト教会)

教会教育研修会を9月10日(土)14時~15時半にzoomで開催しました。10教会24名の出席者でした。講師として富田直美氏(教会教育室長)をお招きしました。

プログラムは、最初にアイスブレイクを兼ねて講師に自己紹介をいただいてから、各教会の教会教育のお悩みや課題などの現状をお聞きしてみんなでコメント、講師のコメントをすることと、来年度から月刊化される『聖書教育』についての紹介と質疑応答の時間でした。

諸教会の状況を伺うと、コロナ下のため教会学校を休止されているところもあれば、高齢者ばかり、とか、無牧師なので神学的な質問に答えられていない気がするとか、子どものクラスは子ども達が好きに参加しているけれども、中高科から途切れてしまう、などなど挙げられました。

どれも自分の教会にも通じる課題だと思いました。こういった課題に対して、講師のコメントが印象的でした。「高齢化、そのどこが悪い?と思っている」「教会“学校”っていうから、学校のように人数が揃っていないといけないと思ってしまうがちだけれど、少なくともいいし、全年齢層がいなくちゃいけないと思わなくていい」。また「牧師がいなくても、大人たちの姿を見て何か伝わっているはず」。その教会では、礼拝の献金奉仕を子どもたちがしているのだそうですが、「それって素晴らしいことで子どもはお客さんじゃなくて、礼拝の主体」。「中高生がいなくなるというけれども、信仰は持たなければならないと信じて祈って待ちたい。そして“送り出す”という感覚でいるのがいい、送り出した先での成長を見ることもある。」と話してくださり、どれも目から鱗の言葉でした。現在、教会学校が閉鎖している教会にも、「再開が楽しみですね」と励ましをいただきました。来年度からの『聖書教育』についても、どんな些細な質問や鋭い指摘にもお答えいただき、来年度からの各教会の活動に役立てられることを願いました。



新「聖書教育」準備委員会より

『聖書教育』をリニューアルするために、準備委員会でたくさんの時間をかけて話し合いました。その中で、英語版・点字訳版の今後についても協議されました。継続が難しいことについては、財政上の理由も大きいですが、それ以上に、大切なことが示されました。私たちがこれまで目を向けてきたことと、目を向けてこなかったことです。英語版・点字訳版は、今までとは違うスタイルになりますが、「なくなる」とは違う、「今、私たちが示された選択」として、受け止めていただければ幸いです。

●英語版について

これまで「外国語といえば、まず英語」と、英語版だけを発行してきました。英語を話す隣人を大切にしようとする働きでした。しかし、私たちの中にある「英語を話す人々への特別なプラスイメージ」や、「英語こそ世界の共通語」という考え方があったかもしれません。外国の方が教会へ来られた際に、国籍問わず「英語の聖書ならございます」と手渡した経験はありませんか。私たちのまわりには、韓国語や中国語を話す方々を始め、東南アジア諸国から来られている方々も多くおられます。もっと早くに、英語だけに目を

向けることを見直す必要があったのではないかと考えさせられました。はるかに少数派かもしれませんが、英語以外を母国語にされている方々に目を向ける時、すべての言語に対応したい気持ちがふくらんできました。「『聖書教育』を、ぜひご自分の母国語で読んでください」と、アプリやソフトで変換しやすいようにテキストデータで販売することを選択しました。

違いを持った目の前の隣人と、どうしたら共に涙を流せるのか、どうしたら心の底から喜べるのか、どうしたら命のみことばを分かち合えるのか、これからも一緒に考えさせてください。

●翻訳用データ版と音声変換用データ版

新『聖書教育』は、外国語に翻訳したいという方向けに「翻訳用データ版」(テキストデータ)を購入できます。必要な言語にするため翻訳ソフトやアプリをご利用される場合にかぎります。(巻頭言メッセージ・聖書の学び・共同学習(大人クラス)・共同学習(子どもクラス)・毎日のみことば・5週月記事「多様なわたしたちが共に」)。また、視覚障がい者の方には「音声変換用データ版」(テキストデータ、PDFデータ)も購入可能です。

